



岩塚 久美子さん



NPO法人 飛騨高山わらべうたの会

#子育て経験者

#伝統継承

どんな活動をしていますか？

NPO法人として、高山市を中心に飛騨地域の子育て家庭をサポートしています。託児事業をはじめ、ひとり親・困窮家庭の支援、地域との交流づくり、親子の防災教室など、内容は多岐にわたります。

2007年に小さな集まりから始まり、そこに集まる親御さんたちの悩みに答えようと動いていたら、いつのまにか現在の形になりました。

活動を始めたきっかけは？

私は結婚を機に県外から高山に来ました。あるとき、以前お手伝いしていた合唱団のオペラ歌手の方が高山に遊びに来て、近所の親子を誘って音楽教室を開いてくれたのです。音楽や歌に導かれ、親子が楽しく触れ合ったのですが、それがすごく良くて、翌年もやろうと言ってくれたので、もっと多くの人に体験してほしいと思い、市

に相談して団体登録をしたのが始まりです。

現在の活動に至る経緯は？

深い意味もなく「わらべうたの会」と名付けた後、市から「飛騨に伝わるわらべうたの継承活動をしてほしい」と相談されました。一度は断ったのですが、次第に「絶やしてはいけない」と思うようになり、冊子にまとめ、親子向け体験会を開催してきました。

活動の中で、親御さんたちの悩みを聞き、託児サービス不足や、孤立しやすい地域柄などの課題が見えてきました。託児サービスの拡充、孤立しやすい家庭への宅食や交流の場、災害時に助け合える地域のつながり、市外の地域とも連携した活動が必要です。

自分たちのできる形から始め、時には市に要望し、子育て家庭に必要なサービスを一つずつ、協力しながらつくってい

ます。

活動への思いは？

子育ての情報が世にあふれ、親御さんたちは「これでいいのかな」と不安になりがち。私もそうでしたが、わらべうたに出会い、こどもを抱っこして目を見つめ、やさしく笑顔で声をかける時間こそが一番大事だと気がきました。活動を通してこれを伝えたいのです。

そして、辛い思いをしている親御さんに「ひとりじゃないよ」と伝え、笑顔になる手助けをしたい。どのお母さんもお子も大事にしたいのです。赤ちゃんが来てくれるのは奇跡的なこと。流産を3回経験して、心からそう思います。

これからは各地域で、子育て支援の仲間を増やし、「こどもたちへのまなざしが優しいまち」を、一緒につくっていけたらうれしいです。



#セカンドライフ世代

#経験活用

どんな活動をしていますか？

大下さん 高山市リサイクルセンターの一角にある高山おもちゃ病院で、壊れたり、動きが悪くなったりしたおもちゃを無償で修理して、持ち主に返す活動をしています。おもちゃが“来院”すると、まずカルテに症状を書き、部品交換などで“治療”してお返しします。

平日は午後1時～午後3時、土日は月に1度開院しています。いらなくなったおもちゃの無償交換会「かえっこ」も随時開催し、そのおもちゃは整備した後すべて消毒します。常設で消毒までしているのは、全国でここだけのようなですね。

その他に、定期運転会や地域のイベントでミニSLの運転会を開いています。

活動に参加したきっかけは？

自動車関連の会社で部品加工などをして働き、63歳で退職。市内のショッピングセン

ターで出張修理をしていた高山おもちゃ病院を「おもしろいなあ」と見ていたところ、声を掛けてもらい、2013年から参加しています。

小さいころから分解や組み立てることが好きでしたが、おもちゃ修理のための特別な勉強はしていません。仕事の経験を生かし、仲間と教え合いながら技術を磨いています。

難しくて直せないものもありますが、代表の福田さんをはじめ、元音楽教師で校長の山本さん、元工業高校教師の加藤さん、元理科教師で校長の中野さんら、経歴も年齢もさまざまな仲間と楽しくやっています。

活動への思いは？

楽しい！動かなかった車が動いたり、音が鳴り出したり、直せたときは本当にうれしいです。そして何より、“治療”が終わったよと連絡して、迎えに来たこどもたちが「ありがとう!」と言っ



大下 健児さん

NPO法人 高山おもちゃ病院

てくれるのいいですね。「次もがんばろう」「ここへ来ている以上、しっかりやらないかな」と思います。体が動くうちは、仲間たちと一緒に楽しく続けていきたいです。

代表の福田さんに、設立に込めた思いを聞きました。

福田さん リサイクルセンターで働いていた際、少し傷んだために捨てられるたくさんのおもちゃがずっと気になっていました。家具や衣服は直す場所があるのに、おもちゃはなぜないのだろう。そこで、他地域の例を学ぶなどして、退職後、2007年に立ち上げ、12年に現在の場所へ。

おもちゃを長く使うことで、物や命の大切さ、人との関わり大切さを伝えていきたい。これを「TOY(トイ)育」として、こどもたちの豊かな未来を少しでも応援できたらと思います。



●この支援に関わりたい！

主な活動場所 (事務所) 高山市山田町294-1-2
問い合わせ TEL:0577-57-8577

●支援のカタチ

託児事業、ひとり親家庭・困窮家庭に向けた宅食事業、地域と子育て家庭の交流事業など



●この支援に関わりたい！

主な活動場所 高山市三福寺町
問い合わせ TEL:0577-77-9419

●支援のカタチ

おもちゃ修理・交換会、ミニSL運転会など

◀(左から) 山本さん、加藤さん、福田さん、大下さん、中野さん



服部みはなさん

朝倉夏実さん

NPO法人 こどもの基地 ねこのひげ

#子育て世代

#元保育士

#放課後児童クラブ支援員

#元保育士

下呂市放課後児童クラブ

どんな活動をしていますか？

「#学校ムリでもここあるよ」をキャッチコピーに、不登校のこどもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。

多くのこどもたちに安心・安全な居場所を届けることを目指し、高山市のこどもの居場所づくり支援事業補助金を受けて実施しています。

活動を始めたきっかけは？

保育士免許を持っており、奈良県で保育士を目指す学生寮の寮母として働きながら、研修などに携わり、学生と日常的に交流をしていました。

結婚を機に高山市へ移り、こどもの成長に携われる場を探している中で「もちもちびと」（こどもの基地 ねこのひげの連携団体）という団体の活動を知りました。もちもちびとが運営する、精神疾患や発達障がいの方の自立支援を行う「ひる

ねこ」でしばらく働き、数カ月後にこどもの居場所「ねこのひげ」に異動しました。これまで約2年半勤務し、現在は育休中です。

活動への思いは？

私の実家は養育里親をしており、母が児童養護施設で働いていたため、さまざまな事情のこどもがいることは理解しているつもりでした。ただ、自分には不登校の経験がなかったため、最初は「辛さを根の部分から理解することはできないのでは」という不安もありました。

その中で、ねこのひげの「ありのままの自分、ありのままのあなた」という理念に励まされ、こどもの気持ちや人権を大切に、「人」として向き合う関係性のすばらしさや心地よさを実感しました。こうして、こどもたちとの関わり方を自然と学んでいったように思います。

こどもへの思いは？

世界はもっと広いということを感じ、もちもちびとの理念通り、「ありのままの自分でいてほしい」と思っています。そして、そんな自分を好きでいてほしいと願っています。

支援を始めたいと思っている方に一言お願いします。

支援団体の存在や活動場所、こどもたちだけでなく、私にとっても居心地が良い場所です。育休中で現場を離れていますが、ねこのひげでの時間はとっても楽しい時間で、ここでの活動が育児のヒントにもなっています。

自分が楽しいと思える場所を地域に広げていくことが、こどもたちのためにもなるなんて、こんなすばらしいことはないと思います。「やらなきゃ」という使命感ではなく、自分も楽しめることが大切です。

どんな活動をしていますか？

ご両親が働いている家庭のお子さんを、放課後に小学校内で預かり、ご両親が安心して働けるようにしています。

こどもたちは、体育館に併設された部屋で宿題をしたり、カードゲームや積み木などを楽しんだりしながら、それぞれが思い思いに過ごします。また、体育館でボール遊びやボルダリングをしたり、校庭の遊具で遊んだりする子もいます。

私たちは、こどもたちが安心・安全に過ごせるよう見守り、必要以上に口出しはしません。

学年は1年生から6年生までと幅広く、年上の子が年下の子の面倒を見る姿もよく見られます。年齢差からけんかをすることもあります。必要以上に介入せず、できるだけ子ども同士で話し合うことを大事にしています。

指導員としては、こどもの気持ちをくみ取り、それぞれの意

見を尊重するよう心がけています。そうすると、お迎えの頃には、笑顔が戻り、また明日も元気に「ただいま」と来てくれる、そんな居場所でありたいと願っています。

活動を始めたきっかけは？

指導員になって3年になります。それまでは保育士をしていました。昔からこどもの面倒を見ることが好きで保育士になりましたが、私のこどもも学童を利用していることもあり、より幅広い年齢のこどもたちと関わりたいと思い、放課後児童クラブの指導員になりました。

活動への思いは？

こども一人一人の個性に寄り添いながら、成長をサポートしたいです。この仕事のやりがいは、こどもの成長を間近に感じられるところ。接する中で、自分自身も成長できていると感

じます。

また、年齢や成長段階に応じて関わり方には気を配っています。低学年の子はしっかり見守り、高学年の子にはそっと距離を取ることもあります。対応の違いに難しさは感じますが、それも含めて楽しいです。「先生、明日もいるよね？」と声をかけてもらえると、本当にうれしいです。

支援を始めたいと思っている方に一言お願いします。

この仕事はこどもの成長をすぐそばで感じられて、たくさんのエネルギーをもらえます。こどもと遊ぶことや触れ合うことが好きな人は、私と同じようにこどもからパワーをもらえるはずですよ。

放課後児童クラブは教えるというよりも、見守る場所。こどもたちが安心して羽を伸ばしてくれたいと思っています。



この支援に関わりたい！

主な活動場所 高山市神明町3-53

問い合わせ 080-7342-8053

支援のカたち

不登校のこどもを対象にした居場所づくり



この支援に関わりたい！

主な活動場所 岐阜県内の各小学校など

問い合わせ 各市町村の放課後児童クラブ担当課
<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/6888.html>

支援のカたち

岐阜県内の各小学校の放課後児童クラブでの児童の見守り、生活指導